

2024年度事業報告会 開催報告

はじめに

当センター 2025年3月18日(火)、「2025年度 東北活性化研究センター事業報告会」を仙台市で開催しました。当センターの2024年度事業の概要等について、タイムリーに報告させていただくことを目的に開催しているものです。

遠方等の理由によりご参加が難しい方々にも当センターの事業の一端をご認識いただきたく、2020年度より YouTube によるライブ配信も行っており、当日は来場者35名、ライブ配信視聴者56名のご参加をいただきました。

概要

第1部「講演」

第1部では、シビックテックの先進的な取組事例として、一般社団法人コード・フォー・ジャパン 代表理事の関 治之^{せき はるゆき}氏より「日本のシビックテックの現状と課題」と題した講演をいただきました。講演内容につきましては、本誌特集「日本におけるシビックテックの現状と課題」に掲載しております。



写真1 講演 関 治之 氏

第2部「東北活性研 事業報告」

第2部では、当センターが2024年度に行った事業について報告を行いました。

また、各報告事業の詳しい内容につきましては、本誌「活動紹介」に掲載しております。

事業報告①

「シビックテックによる地域課題解決の先進事例」と題して調査研究部 主任研究員 佐藤 司より報告しました。概要は以下のとおりです。

日本におけるシビックテックは、当初、市民主導により取り組まれていたが、現在のシビックテックの形態は市民主導、行政主導、企業主導の3つに分類できる。市民主導の事例として「ひぐまっぷ」「会津の暮らし研究室」があり、特に、「会津の暮らし研究室」では、藤井氏をキーパーソンとして、リビングラボといった手法を取り入れた活動を展開している。

また、行政主導の事例として「シビックテックチャレンジ YAMAGUCHI」においては、行政が主導して企業や市民との協働による地域課題解決を進めている。

最後に、持続可能なシビックテックモデルとして、短中期では行政主導型、長期的にはリビングラボを活用した市民主導型のモデルを提示した。

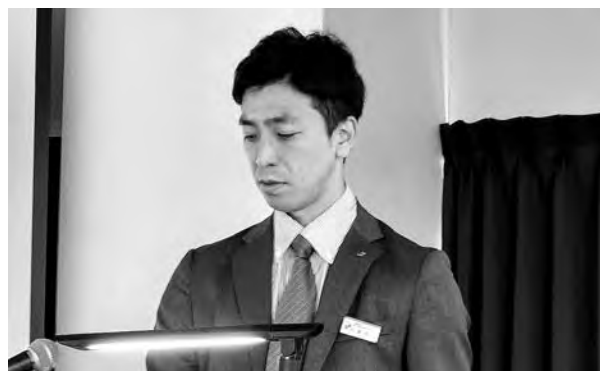


写真2 調査研究部 主任研究員 佐藤 司

事業報告②

「人生100年時代におけるICTを活用したフレイル予防の現状と展望」と題して調査研究部長 金内 雅人より報告しました。概要は以下のとおりです。

フレイルの定義とは「加齢に伴うストレス回復力の低下状態」であり、適切な介入により健康状態に戻れる可能性がある。

現在、国が主導するフレイル予防は、既存の介護保険制度の枠組みの中で対応している。フレイル予防関連産業の市場規模は2020年で約25兆円、今後2050年までに77兆円まで拡大することが予想される。

国内におけるICTを活用したフレイル予防サービスの事例として、タニタヘルスリンクのクラウドベースサービスや、エーザイの脳健康度チェックシステムなど、具体的なサービス事例を紹介。

また、ICTを活用したフレイル予防に取り組んでいる産官学にヒアリングを行った結果、企業、行政、アカデミアそれぞれが利用者拡大、事業性確保、効果検証等の課題を抱えていることが明らかになった。

これらの課題解決には産官学の単独の取り組みでは限界があり、各主体が連携したコンソーシアムの構築が必要であるとの提言をおこなった。



写真3 調査研究部長 金内 雅人

事業報告③

「地域課題解決に向けた実践的活動について」と題して地域・産業振興部長の秋山 尚弘より報告しました。概要は以下のとおりです。

東北圏の活性化や産業振興への貢献に向けて取り組んでいる「東北・新潟のキラ☆企業」「東北・新潟のキラ☆パーソン」「人口の社会減と女性の定着に関する情報発信」「東北・新潟のD & I(ダイバーシティ & インクルージョン)ネットワーク勉強会」「TOHOKU わくわくスクール」「地域活性化に関するプロジェクト支援」について、2024年度の事業概要と成果を報告した。



写真4 地域・産業振興部長 秋山 尚弘

おわりに

当センターでは、事業報告会を重要な情報発信の機会と位置付けており、今後も毎年開催してまいります。

また、各種イベント等も適宜開催しております。今後とも、事業活動等について、ホームページやSNSなども活用して、情報を発信してまいります。変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。